

## JA神奈川つくい

つくいのお茶の湯

協茶業センター(山北町)で加工され、県産ブランド「足 柄茶」となる。「お茶の湯」は加工場でふぞろいなどの理由 で除外された茶葉を有効活用したものだ。

最もこだわったのが、色と香り。特に色は、入浴料を浴槽に溶かした時に「急須で入れたような緑色」が再現されるよう、メーカーでの試作段階で何度もやり直したという。2021年11月に販売を開始すると、反応は上々。「お茶の香りがするね」という消費者の感想に、試行錯誤の苦労は報われた形だ。

この地域の風土を知るお土産としても最適。中原課長は「足柄茶の産地、津久井のお茶を全身で"味わって"ほしい」と話している。1袋150円、5袋セットで750円。 直売所「あぐりんずつくい」などで発売中。

## 湯船に香りをプラス

爽やかなお茶の香りが、わが家の湯船から立ち上る一。 県北の津久井地域で収穫された茶葉が、お風呂に入れる 入浴料「つくいのお茶の湯」に生まれ変わり、JA神奈川 つくい(相模原市緑区)の直売所などで販売中だ。古く からの茶の産地であることをPRするとともに、生産から 加工、販売までの6次産業化も推し進める。

「ありきたりな飲食物ではつまらないと思い、『風呂に関係のあるものにしてみては』と何げなく話したのがきっかけ」。そう話すのは、同JA営農経済課中原正貴課長(49)。農産物のブランド化を目指す商品開発の会議で提案した。

山間部の津久井地域は昼夜の寒暖差が大きく、それが お茶の味を一層濃くする。現在は年間20トンほどの生 葉が地域の加工場に持ち込まれており、選別を経て県農

## あぐりんずつくい

所 在 地:相模原市緑区中野625-1 ☎042-850-4183

営業時間: 4月~11月 10:00~17:30 12月~3月 10:00~17:00

(日・祝祭日は17:00まで)

定 休 日:毎月第3水曜日、12月31日~1月4日



あぐりんずつくいHP